

令和2年4月8日

報道機関 各位

大阪体育大学 広報室

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大の影響 【速報】大学生への影響調査の結果

調査代表者 藤本教授

全国の多くの大学は、新型コロナウイルスの感染・感染拡大予防の対策として、令和2年度の新学期から入学式の中止、授業開始の延期、クラブ活動の自粛や停止などの対策を取っています。春を迎え、新学期と新しい学生生活を迎えるはずであった学生・新入生は、大きな不安を抱えていると思います。今後、大学が取り組む「安全・安心」対策の検討・構築において、学生の意識や行動、大学生活への不安、経済的側面への影響などを把握することで有用な情報を得ることが出来ます。特に、様々な学業に関する事業とともに、大学の運動部や文化部、サークル活動での感染・感染拡大防止と、安心して活動できる環境整備に、本結果がお役に立てれば幸いです。

調査概要

- 【研究代表者】 藤本淳也（大阪体育大学）、
【共同研究者】 福田一儀・鳥山稔（至誠館大学）、松永敬子（龍谷大学）、江原謙介（追手門学院大学）
【共同研究機関】 KCAA（大学スポーツコンソーシアム KANSAI）
【調査目的】 ①学生の大学生活への新型コロナウイルス感染症拡大の影響を明らかにすること
②特に、一般生活、学業、部活動、アルバイトなどの現状と影響を把握すること
③今後の大学生活と大学リスクマネジメントの充実に寄与すること
④大学リスクマネジメント研究の充実に寄与すること
【調査対象】 全国の大学生
【調査方法】 グーグルフォームを用いたオンライン調査。調査実施者と共同研究機関からウェブサイトやSNSを使ってURLを配信して協力を求めた。
【調査期間】 2020年4月1日（水）17:00～4月7日（火）17:00
【回答者数】 1,561人
【問合せ先】 藤本淳也 fujimoto@ouhs.ac.jp
【その他】 この調査は、大阪体育大学研究倫理審査の承認を得て実施しました。
【調査項目】

1. 回答者の特性

性別
学年（2020年度）
回答日
在学大学の設置者
在学大学の所在地
居住形態
通学の交通機関

1. 新型コロナウイルス関連情報について

新型コロナウイルス関連情報の接触度
新型コロナウイルス関連会話の実施程度

2. 感染・感染拡大予防関連の意識と行動

2月と3月の海外渡航歴
感染「危険行動」の理解度
感染・拡大予防行動の実施度
在籍大学の「感染・予防対策」の理解度
在籍大学の「感染・予防対策」の評価
日本政府の「感染・予防対策」の評価

3. 日常・大学生活における不安

大学で「感染の不安」を感じる施設や活動とその不安度
大学生生活の不安を感じる事柄とその不安度
日常生活で「感染の不安」を感じる場所とその不安度
日常生活の総合的な不安度

5. 家族への経済的影響

大学「授業料」の確保先
感染拡大後の「家族収入」の変化
2020年4月以降の「家族収入」の変化見込み

6. アルバイト活動の状況と影響

アルバイト実施の有無
アルバイト先の「3密」環境の認識
アルバイト先の感染・拡大予防策の評価
感染拡大後の「アルバイト収入」の変化
2020年4月以降の「アルバイト収入」の変化見込み

7. 部活動・サークル活動の状況と影響

学内の部活動やサークルなどへの所属の有無
所属団体の種目や種類
所属団体の部員数
所属団体の競技・実績のレベル
大学が所属団体に課している対策など
所属団体の活動における「3密」環境の認識
所属団体の「活動中の感染の不安」事項とその不安度
所属団体の「活動中の感染」に対する総合的な不安度
所属団体が感染拡大で影響を受ける活動とその不安度
所属団体の「活動費」の確保先
所属団体の活動継続（実施）の経済的不安度

8. 感染症拡大と大学生活に関する意見（自由記述）集計中

1. 回答者の特性

- 在籍大学は私学が 94.3%である。その所在地は近畿が 84.1%と偏りがある（データの解釈で必要に応じて考慮すべき）
- 性別は男性 51.7%、女性 48.3%。学年は 1 年生から 4 年生までほぼ同じ割合の回答を得た

2. 新型コロナウイルスの関連情報について

- 68.1%の回答者が、TV ニュースやネット、SNS で関連情報を「よく見聞き」している
- 回答者は家族や友人・知人などと「よく会話（53.3%）」している

3. 感染・感染拡大予防関連の意識と行動

- ごくわずかではあるが、2 月と 3 月に海外渡航歴がある回答者がいる
- 感染につながる危険行動をほとんどの回答者が「理解している」が「しっかりと理解している」は 29.7%
- 感染予防行動をほとんどの回答者が「取り組んでいる」が「しっかりと取り組んでいる」は 24.8%
- 在籍大学の「感染・予防対策」は多くの回答者が「理解している」が「しっかりと理解している」は 18.6%
- 在籍大学の「感染・予防対策」は多くの回答者が「適切な対応」と評価しているが「非常に適切な対応」と評価しているのは 12.0%
- 日本政府の「感染・予防対策」の評価は「非常に適切」「適切」「まあ適切」の合計が 35.8%

4. 日常・学生生活に対する不安

- 全体の 94%の回答者が生活全般で「感染の不安」を感じている（「非常に不安」は 34.6%）
- 多くの回答者が大学内の教室や各施設、部活・サークル活動において「感染の不安」を感じている
- 多くの回答者が「授業や行事、インターンシップの実施」「就職活動」「部活・サークルの実施」のなどに不安を感じている
- 日常生活では「電車」「駅」「病院」での「感染の不安」を強く感じている

5. 家族への経済的影響

- 大学「授業料」は、「親」92.5%と「奨学金」29.9%である
- 感染拡大後の「家族収入」は、「大きく減少」5.8%を含めて全体の 34.9%が「減少した」と回答
- 2020 年 4 月以降の「家族収入」見込みは、「大きく減少」11.8%を含めて 55.9%が「減少の可能性はある」と回答

6. アルバイト活動の状況と影響

- 通常の授業期間中にアルバイトをしている回答者は 64.9%である
- アルバイト先は「3密」のどれか、そしてすべてを満たす環境もある
- アルバイト先の感染予防への取り組みを 50%以上が「適切」と評価しているが「非常に適切」は 8.4%に過ぎない
- 感染拡大後の「アルバイト収入」は、「大きく減少」22.4%を含めて全体の 58.4%が「減少した」と回答
- 2020 年 4 月以降の「アルバイト収入」は「大きく減少」34.6%を含めて 74.2%が「減少の可能性はある」と回答

7. 部活動・サークル活動の状況と影響

- 回答者の 64.6%が学内の部活動やサークルなどへの所属している
- 回答の時点で活動への大学の対策は「全面的に禁止・停止」状態の人が 55.1%、「特になし」15.3%である
- 活動における「3密」環境の認識は、そのどれか、そしてすべてを満たす可能性が高い活動がある
- 所属学生の 81.2%が「活動中の感染」に不安を感じている（「非常に不安」は 28.6%）
- 所属学生が「不安に感じる活動場面」は「大学に行く交通機関」「他部員との距離」「部室」「ミーティング」の回答が多い
- 所属団体に関連する不安は「部員の感染」「練習自粛」「大会中止」「自分やチームの力低下」が特に多い
- 「活動費」の確保先は、「親」58.3%、「アルバイト・給与」59.4%、「大学からの奨学金など」11.2%である。
- 2020 年 4 月以降、活動継続（実施）のための自身の経済的不安を 57.6%が感じている

【調査結果の詳細について】

結果の詳細は、別途お問い合わせください。また、共同研究機関である KCAA（大学スポーツコンソーシアム KANSAI）の公式ウェブサイトでも公表します。なお、上記の調査結果のデータは速報値です。予告なく微修正する場合があります。あらかじめご了承ください。



藤本 淳也（ふじもと・じゅんや）

大阪体育大学 教授・学長補佐（スポーツマーケティング）。大学スポーツコンソーシアム KANSAI（KCAA）副会長。UNIVAS（大学スポーツ協会）理事。日本スポーツマネジメント学会理事。日本アスリート会議理事ほか。

※この件の詳細や取材のご希望は下記の入試・広報部までご連絡ください。コメントをご使用の際は大学、氏名を明記してください。写真データをご希望の方は下記に電話、メールでお知らせください。

【大阪体育大学 広報室】

大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1 TEL 072-453-7070 FAX 072-453-8970
担当・大坪 koho.users@ouhs.ac.jp

